

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現 6年生	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	64.0	66.0	51.7	62.0
	(0.98)	(0.97)	(1.03)	(1.02)
R5 正答率の全国比		0.98		0.99

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに全国平均・県平均とほぼ同等である。
- 国語、算数ともに好きな児童は多いが、算数については好きではないと回答している児童が半数近くいる。
- 国語の正答率について、「話すこと・聞くこと」は高いが、「書くこと」は著しく低い。また、記述式の正答率が低い。
- 算数の正答率について、「データの活用」は高いが、選択・記述式である「図形」の問題の正答率が著しく低い。
- 二教科ともに記述式以外の問題の無回答率が低く、できそうなことはあきらめずやり通すことはできる。
- 自分によいところがあると思えずにいる自己肯定感の低い児童がいる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 既習事項の定着を図るとともに、授業導入場面や一人調べの時間を工夫し、児童が自力解決の見通しをもって取り組むことができるようにする。
- 複数の条件を提示し、条件に合わせて記述する場面を設定して経験を積ませ、書くことへの抵抗感をなくしていく。
- 文章を読み取ったり、資料などの情報を整理したりする過去の調査問題を、単元内の学習過程に取り入れる。
- 自分の考え等を発表する場を多く設け、自信をつける機会にする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習や生活場面において、条件に合わせたり、まとめたりする書く活動を取り入れ、日頃からスムーズに書くことができるようにする。
- 各教科において身に付けさせたい領域、内容の学習課題を設定し、家庭学習で繰り返し取り組ませることで習熟を図っていく。
- 児童が活躍できる場を保障し、それぞれの児童にチャレンジさせる出番を作るようにする。
- 学校生活の様々な場面で、前に立って発表する機会をつくり、やり遂げさせ、できたことを称賛し誉めて認められる場とし、自信をもたせていく。